

第1章 市立高等学校・専門学校改革基本計画の策定について→原案どおり

1. 改革の趣旨

- ・高等学校においては最後の学科改編から約 20 年、専門学校については最後の校名変更から約 30 年が経過し、現在の社会及び市民のニーズに応じた新たな時代を見据えた教育内容の見直しが求められている。

2. 計画の位置づけ

- ・「市立高等学校・専門学校改革基本計画」は、「熊本市第7次総合計画」（令和元年度中間見直し）及び「熊本市教育大綱（熊本市教育振興基本計画）」（令和2年度改訂）の理念を踏まえて策定するもの。

第2章 市立高等学校・専門学校の現状と課題について

1. 必由館高等学校

- ・現状：明治44年（1911年）開校、平成13年（2001年）に校名変更学科改編を行い普通科普通、普通科国際コース、普通科芸術コース、普通科服飾デザインコースを設置し、特色ある教育活動を実施
部活動は文武両面で活躍
地元の私立大学を中心に約9割の生徒が進学
普通科普通の出願倍率については高水準で推移
- ・課題：学習意欲や学力に生徒間の差が見られ、主体的に学ぶ意欲や態度の育成が必要

第3章 市立高等学校・専門学校の改革方針

1 改革の基本理念

- ・自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校へ改革する。

2 三つの特色

(1) 「市立ならではの」特色ある学校

①学科・設置形態	・幅広い進路選択と特色ある学びを可能とするため、現行の普通科を発展、特色化した「 新たな普通教育を主とする学科 」を設置 ・中高一貫教育実施も視野に、必由館高校に附属中学校を設置することを 検討
②少人数クラス編制	・高校は、きめ細かな指導・支援を実施するため、 30~35人学級 編制を実施 ・少子化の進展等に応じて 段階的に募集定員を減じる ことについて継続的に検討
③学校間連携	・市立高校2校の連携強化方策の検討
④市が所管する地域資源等の活用	・市役所や熊本城等、市の所管する施設・機関と連携した探究学習等 ・市の創業支援関連事業と連携した起業家教育の実施
⑤多様な生徒受け入れ	・ 多様な個性や才能を持つ生徒 や 意欲ある生徒 を受け入れる選抜方法へ変更 ・ 個別学習教材の導入 や 民間教育資源との提携 等による個に応じた学びの実現 ・校内での支援体制強化（障がいを持つ生徒等への指導・支援の拡充、オンライン教育の推進、外国にルーツを持つ生徒への支援、LGBTQ等の性的マイノリティの生徒への支援など）
⑥特別活動の充実	・生徒会組織や活動内容を再構成し、生徒による自治を推進 ・ 既存の部活動の振興
⑦外部人材の登用	・教育関係者で功績のある外部人材をアドバイザー等として登用

(2) 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校→原案どおり

①市・企業・大学等と連携した課題解決型学習	・市役所や市の施設におけるフィールドワーク ・ベンチャー企業の経営者等を講師招聘した講話 ・大学や地域の企業との連携による課題解決学習
②SDGsを中心に据えた探究的学習	・まちづくりや環境、福祉などの諸問題について、課題解決策等の探究的学習 ・熊本地震からの復興や防災・減災をテーマとした地域課題に関する探究的学習
③個別の興味関心に応じた探究課題の設定	・生徒が希望する進路に関する探究や大学、企業等の調査 ・生徒の興味や関心に応じた「自分事」となる課題追究的な学習

(3) 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校→原案どおり

①生徒主体の探究的な学びの実現	・探究的な学びの授業づくりに生徒が参画する機会を設ける ・市役所や企業・地域団体・大学等との連携構築段階から生徒が参画
②学校運営への生徒の参画	・校則の策定や見直しに生徒が参画する ・生徒が職員と協議、提案する機会を設ける
③生徒の主体性を尊重する 教員の専門性向上	・生徒の考える力を引き出すような授業への改善 ・生徒をファシリテートできる資質・能力の育成

第4章 各校における改革方針

1 新たな必由館高等学校への改革

教育理念 文武両道の校風のもと、**多様な個性を尊重しながら主体的に生きる力を育成**する

課程・学科・概要

〈現行〉定員 360名

普通科	普通 6クラス (240名)
	国際コース 1クラス (40名)
	芸術コース 1クラス (40名)
	服飾デザインコース 1クラス (40名)

〈改革案〉募集定員 315名

総合探究科 (仮称)	総合探究コース (仮称) 7クラス (245名) 2年次：進路希望に応じた基礎科目選択 3年次： 進路の希望や興味関心等に応じてクラス (類型) 分け 【例：国際探究、人文探究、サイエンス探究、文理総合 等】
	芸術コース (仮称) 1クラス (35名) (音楽、美術、書道の3系)
	生活デザインコース (仮称) 1クラス (35名) (衣食住に関する学びを深めるコース)

併設中学校の新設検討について

・検討委員会答申 (R2.3月) では「**設置するかどうかも含め、小中学生をはじめとする市民のニーズを詳細に分析し、適切に判断されるようお願いする**」

目的・方法	・市民の意見・ ニーズを改めて調査 し、教育委員会の検討材料とする ・コロナ禍による影響、市の財政状況等を踏まえ、改めて設置の必要性について慎重に検討する
設置により想定される影響	・併設中学校の入学志願倍率が高い場合でも、 高校段階からの入学希望者が減少 する可能性 ・ 施設設備 に伴う予算措置 (技術室、音楽室、普通教室、多目的室等) が必要
必要な調査	・高校の教育内容の特色が明らかになった後に改めて設置の必要性等を調査 ・施設設備の コスト試算を提示 した上で市民のニーズを調査

第5章 スケジュール (予定・最短)

内容	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7～
学科・コース検討	概要・詳細検討			開校予定 (最短)	
教育課程検討	学校設定教科検討	開設科目等検討	シラバス作成・公表		
選 抜 検 討	選抜方法等調査研究	選抜問題作成検討	選抜問題作成 選抜実施		
生 徒 募 集		中学校等への説明 説明会実施	→		
中高一貫教育検討		コスト試算等	ニーズ調査・分析検討	→	(設置する場合は 施設整備)

市立高等学校・専門学校改革基本計画

必由館高等学校提案

令和3年（2021年）7月

熊本市立必由館高等学校

目次

第1章 市立高等学校・専門学校改革基本計画の策定について.....	3
第2章 市立高等学校・専門学校の現状と課題について.....	3
1. 必由館高等学校.....	3
(1) 現状.....	3
(2) 出願倍率.....	3
(3) 課題.....	4
第3章 市立高等学校・専門学校の改革方針.....	5
1. 改革の基本理念.....	5
2. 三つの特色.....	5
(1) 学校の特色Ⅰ「市立ならではの」の特色ある学校.....	5
①学科・設置形態.....	6
②少人数クラス編制.....	6
③学校間連携.....	6
④市が所管する地域資源や人的ネットワークの活用.....	6
⑤多様な生徒の受け入れ.....	6
⑥特別活動等の充実.....	6
⑦社会で活躍する外部人材の校長等への登用.....	7
(2) 学校の特色Ⅱ 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校.....	7
(3) 学校の特色Ⅲ 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校.....	7
第4章 各校における改革方針.....	8
(1) 教育理念.....	8
(2) 設置形態・規模.....	8
(3) 学科・コース.....	8
(4) 学科・コースの詳細.....	10
①総合探究科・総合探究コース（仮称）.....	10
②総合探究科・芸術コース（仮称）.....	10
③総合探究科・生活デザインコース（仮称）.....	10
(5) 併設中学校の新設検討について.....	10
第5章 スケジュール（予定・最短）.....	12

第1章 市立高等学校・専門学校改革基本計画の策定について

(略)

第2章 市立高等学校・専門学校の現状と課題について

1. 必由館高等学校

(1) 現状

必由館高校は、明治44年（1911年）に熊本市立実科高等女学校として開校し、昭和24年（1949年）の共学化、昭和34年（1959年）の商業科独立、3回の校名変更を経て、現在に至っている。平成13年（2001年）に学科改編を行い普通科普通、普通科国際コース、普通科芸術コース、普通科服飾デザインコースを設置し、特色ある教育活動を実施している。部活動では、野球部、剣道部、女子バレーボール部などの運動部のほか、和太鼓部、美術部、書道部、音楽部、服飾デザイン部といった文化部など、文武両面で活躍している。卒業生の進路については、地元の私立大学を中心に約9割の生徒が進学し、そのうち国公立大学へ例年30～40人程度進学している状況である。主な就職先は地元企業や公務員等である。

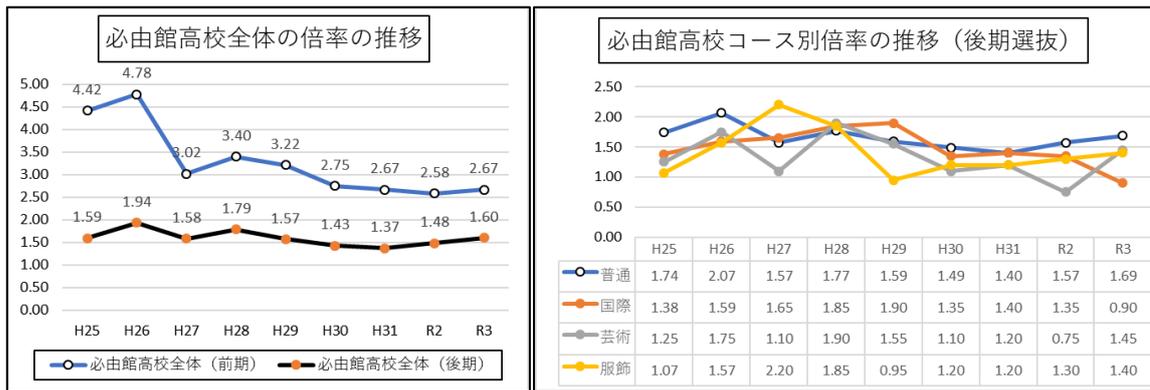
所在地	中央区坪井4丁目15番1号			
全校生徒	1,049名（男321人、女728人）R3.5.1現在			
学科	全日制・普通			
コース	普通	国際	芸術	服飾デザイン
募集定員 1学年 計360人	240	40	40	40
学級数 1学年 計9クラス	6	1	1	1
教員数	105人（校長1、教頭2、教諭等90（うち非常勤22、実習助手3）事務他12）			

(2) 出願倍率

前期（特色）選抜の出願倍率は、平成26年（2014年）の4.78倍をピークとして、その後は全体的に緩やかな低下傾向にあり、平成28年（2016年）以降は平均3倍前後で推移している。

後期（一般）選抜の出願倍率は、平成27年（2015年）の服飾デザインコース（2.20倍）をピークとして全体的にやや低下傾向にあり、平成29年（2017年）以降は、コースによっては定員割れが生じている。

普通科普通の出願倍率については、普通科の前期（特色）選抜を廃止した平成27年以降、1.40倍以上を維持している。令和3年度入試では県内公立高校普通科で2番目の倍率となる1.69倍であり、高水準で推移している。



(3) 課題

普通科については、生徒が偏差値（学力）によって高校選択をする傾向がある。国の調査においても、特色や目的意識ではなく、他律的な動機付けによって高校選択をした生徒は、高校生活での学習意欲や満足度等が低い傾向にあることが指摘されている。

本校においても学習意欲や学力の差が大きく、主体的に学ぶ意欲や態度を育成するための取組が一層必要である。今後は、20年後・30年後の社会像を見据え、学校内外の教育資源を最大限活用して特色・魅力ある教育を実現することが求められる。

第3章 市立高等学校・専門学校の改革方針

1. 改革の基本理念

(略) (原案どおり)

2. 三つの特色

改革の基本理念を具体化するため、生徒や保護者から選ばれる魅力となる特色を、図表2に整理した。これらの「学校の特色」に基づき、改革を実行する。この特色は、必由館高校、千原台高校、総合ビジネス専門学校の3校すべてに共通する方向性とする。

図表 2 学校の特色

I 「市立ならではの」特色ある学校
II 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校
III 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校

(1) 学校の特色 I 「市立ならではの」特色ある学校

(必由館高校関連部分のみ記載)

図表 3 「市立ならではの」特色ある学校

「市立ならではの」特色ある学校	① 学科・設置形態	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い進路選択と特色ある学びを可能とするため、現行の普通科を発展、特色化した「新たな普通教育を主とする学科」を設置 中高一貫した系統的な教育を実施することも視野に、必由館高校に附属中学校を設置することを検討
	② 少人数クラス編制	<ul style="list-style-type: none"> 高校は、きめ細かな指導・支援を実施するため、30~35人学級編制を実施 少子化の進展等に応じて段階的に募集定員を減じることについて継続的に検討
	③ 学校間連携	<ul style="list-style-type: none"> 市立高校2校の連携強化方策の検討
	④ 市が所管する地域資源や人的ネットワークの活用	<ul style="list-style-type: none"> 市役所や熊本城等、市の所管する施設・機関と連携した探究学習等 市の創業支援関連事業と連携した起業家教育の実施
	⑤ 多様な生徒の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> 多様な個性や才能を持つ生徒や意欲ある生徒を受け入れるため、市独自の選抜方法へ変更 個別学習教材の導入や民間教育資源との提携等による個に応じた学びの実現 校内での支援体制強化（障がいを持つ生徒等への指導・支援の拡充、オンライン教育の推進、外国にルーツを持つ生徒への支援、LGBTQ等の性的マイノリティの生徒への支援など）
	⑥ 特別活動等の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会組織や活動内容を再構成し、生徒による自治を推進 既存の部活動の振興
	⑦ 社会で活躍する外部人材の登用	<ul style="list-style-type: none"> 教育関係者で功績のある外部人材をアドバイザー等として登用

①学科・設置形態

必由館高校は、幅広い進路選択と特色ある学びを可能とするため、現行の普通科を発展、特色化した「新たな普通教育を主とする学科（学科名未定）」を設置し、当該学科の中に、芸術に関するコース（と生活デザインに関するコース）を設置する。

また、市立高校であることを生かし、義務教育段階から連続的な教育を行う等の特色ある教育を実施する中高一貫教育の必要性やあり方について調査、検討を行う（詳細は「第4章各校における改革方針」に記載）。

②少人数クラス編制

必由館高校について、生徒一人ひとりへのきめ細かな指導、支援を実現するとともにことで、探究的・体験的な学びの充実を図るため、1クラス 35人以下を標準とする。

なお、将来的な少子化の進展や、法令に示された学級編制の基準の変更等、学校を取り巻く環境の変化に応じて、段階的かつ柔軟に募集定員を減じることについても、継続的に検討するものとする。

③学校間連携

ICT 機器やネットワーク環境を活用し、探究的な学びの一部を共同実施する等、高等学校間の連携方策について研究する。

④市が所管する地域資源や人的ネットワークの活用

（略）（原案どおり）

⑤多様な生徒の受け入れ

市立学校の役割として、特定の分野に秀でた才能を持つ生徒や経済的な困難を抱える生徒、特別な配慮が必要な生徒など、多様な個性や才能、生活背景、生活上の困難を持つ生徒の学習や進路実現を支援する役割を果たすことが重要である。

少人数によるクラス編制も、様々な生活背景や生活上の困難を抱えた生徒に対するきめ細かな指導、支援の実現を目指す施策の一つである。

高校の入学者選抜段階においては、多様な個性をもった生徒や意欲ある生徒を積極的に受け入れられるよう、市独自の選抜方式を導入する。

加えて、個別学習教材の導入や民間教育資源との提携等、オンライン教育を活用して個に応じた学びの実現を図る。

⑥特別活動等の充実

生徒会活動について、生徒会組織や活動内容を再構成し、生徒による自治を推進する。また、学校行事の企画・運営・検証に生徒が主体的に関わるようにする。

部活動についても、活動の企画・運営・検証に生徒が主体的に関わるようにするなど、生徒の意欲やニーズ、実態に応じたあり方を検討するとともに既存の部活動の一層の振興を図る。

⑦社会で活躍する外部人材の登用

本改革を強力に推進していくため、教育関係者で功績のある外部人材をアドバイザー等として登用することを検討する。例えば、図表8のような人材が考えられる。

図表8 外部人材の例

必由館高校	国際教育や芸術教育、探究について造詣が深く、改革を支援する力量のある人材 【例】民間出身の校長経験者、教育改革の実践経験者 等
--------------	--

(2) 学校の特色Ⅱ 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校

(略) (原案どおり)

(3) 学校の特色Ⅲ 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校

(略) (原案どおり)

第4章 各校における改革方針

1. 新たな必由館高等学校への改革

(1) 教育理念

必由館高校は、学業や文化活動、スポーツなど、多様な個性を伸ばし、生徒の幅広い進路希望や興味関心に応じた主体的な学びを実現する学校とする。また、「SDGs 未来都市」としての熊本市の取組に関する学習など、地域理解を深める探究学習を実施する。

これらに加え、現在の教育の特色も踏まえ、必由館高校における教育理念を「文武両道の校風のもと、多様な個性を尊重しながら主体的・探究的に学ぶ生徒を育成する」と定める。

図表 11 必由館高校の教育理念

文武両道の校風のもと、多様な個性を尊重しながら主体的に生きる力を育成する

(2) 設置形態・規模

現在の特色の一つである文化活動や体育活動、生徒会活動等、幅広い活躍の場を確保すると同時に、進路希望にきめ細かく対応するため、1クラス35人学級とし、1学年315名程度（9クラス）を想定する。

(3) 学科・コース

令和3年3月に改正公布された学校教育法施行規則に基づき、幅広い進路選択を可能とする普通科のカリキュラムに、特色ある学びを融合させた「総合探究科（仮称）」を設置し、その中に、上級学校進学に向けた学習や興味関心に応じた学習を行う「総合探究コース（仮称）」と、芸術に関する学びを深める「芸術コース（仮称）」及び衣食住に関する学びを深める「生活デザインコース」を設置する。

図表 12 必由館高校学科・コース案 (※人数は1学年あたりの募集定員)
 (現行) (変更後)
 募集定員 360名 募集定員 315名程度

普通科	普通 6クラス(240名)	総合探究科 (仮称)	総合探究コース (仮称) 7クラス (245名) 2年次：進路希望に応じた基礎科目選択 3年次：進路の希望や興味関心等に応じてクラス(類型)分け 【例：国際探究、人文探究、サイエンス探究、文理総合等】
	国際コース 1クラス(40名)		芸術コース (仮称) 1クラス (35名) (音楽、美術、書道の3系)
	芸術コース 1クラス(40名)		生活デザインコース (仮称) 1クラス (35名) (衣食住に関する学びを深めるコース)
	服飾デザインコース 1クラス(40名)		

図表 13 現在の学科・コース概要との比較

(現行)

	普通科
普通	◎興味関心に応じて個性を伸ばす ◎2年次から文系/理系を選択 ●国立大学や医療看護系の上級学校進学を目指す
国際コース	◎異文化理解能力の育成 ◎海外研修等を通じた外国人とのコミュニケーション能力の育成 ●国立大・私立大学(文系)への進学を目指す
芸術コース	◎音楽、美術、書道の3系 ◎表現及び鑑賞の専門的な学習 ●国立・私立大学(芸術系、教育学部等)への進学を目指す
服飾デザインコース	◎専門科目や行事を通して計画性、探求力、表現力を育成 ●4年制大学(文系、教育系、服飾系、デザイン系)への進学を目指す

(変更後)

総合探究科 (仮称) (9クラス 315名)				
		総合探究コース (仮称) (7クラス)	生活デザインコース (1クラス)	芸術コース (1クラス)
概要	学科の	◎多様な進路希望や興味関心に応じた学びを実現 ◎2年次から進路希望に応じて基礎科目を選択 ◎3年次には進路希望や興味関心に応じたクラス編成	◎衣・食・住に関する専門教育	◎音楽、美術、書道の3系による専門教育
想定	進路	●大学入学共通テスト受験による国立大学進学 ●総合型選抜受験等による各種大学進学 ●専門学校・各種学校進学	●大学、専門学校への進学	●大学(芸術系、教育学部等)への進学
内容	教育	・国際理解や地域理解に関する学校設定教科開設 ・地域社会や自治体と連携したフィールドワーク中心の探究学習 ・興味関心等に応じた探究学習 等	・専門学習及び横断的な学習	・表現及び鑑賞の専門的な学習
方法	選抜	・学力検査のほか、実技検査、面接、小論文、プレゼン等による選抜		

(4) 学科・コースの詳細

①総合探究科・総合探究コース（仮称）

総合探究科・総合探究コース（仮称）では、生徒の進路希望に応じた上級学校への進学に対応した学びと、生徒個別の興味関心に応じて様々な方法で探究する学びの実現を目指す。そのための方策として、例えば、進路希望に基づく選択科目の類型によるクラス編制や習熟度に応じたクラス編制なども考えられる。

定員・クラス数は7クラス（245名）を想定している。

②総合探究科・芸術コース（仮称）

総合探究科・芸術コース（仮称）では、現行の普通科芸術コースにおける教育内容を基礎に、芸術を通じた社会貢献に取り組む探究学習や教科・科目横断的な学習などに取り組むことが考えられる。

定員・クラス数は1クラス（35名、音楽・美術・書道の3系）を想定している。

③総合探究科・生活デザインコース（仮称）

総合探究科・生活デザインコース（仮称）では、現行の服飾デザインコースにおける教育内容に加え、「食」や「住」に関する学習の充実や、教科・科目横断的な学習などに取り組むことが考えられる。

加えて、家庭クラブで取り組んでいる地域への貢献や生活課題の解決・改善に向けた活動を発展させた探究学習に取り組むことなども考えられる。

定員・クラス数は1クラス（35名）を想定している。

(5) 併設中学校の新設検討について

併設中学校の設置については令和元年のアンケート調査で一定の設置ニーズがあったと説明されたが、令和2年3月の検討委員会答申では、「設置するかどうかも含め、小中学生をはじめとする市民のニーズを詳細に分析し、適切に判断されるようお願いする」と示された。

アンケート実施当時から現在までには、新型コロナウイルス感染拡大による社会情勢、経済状況の激変により、社会の価値観や教育ニーズが大きく変化したと予想される。

よって、併設中学校の新設については、新たな高等学校像が定まったうえで、設置のニーズを改めて調査し、熊本市教育委員会と必由館高校との検討組織を設置して検討することとする。

図表 18 併設中学校の設置検討について

<p>目的・方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・併設中学校の新設について市民の意見・ニーズを改めて調査し、教育委員会の検討材料とする ・新型コロナウイルス感染拡大による社会的影響、市の財政状況の変化等を踏まえ、改めて設置の必要性について慎重に検討する。
<p>設置により想定される影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・併設中学校の入学志願倍率が高い場合でも、高校段階からの入学希望者が減少する可能性がある。 ・施設設備に伴う予算措置（技術室、音楽室、普通教室、多目的室等）が必要。 ・中学生と高校生との施設共用や合同行事の実施、部活動の運営等について入念な検討と配慮が必要。 ・中学校からの入学者と高校からの入学者の教育課程の区別と中学校入学者のアドバンテージを明確にしておく必要がある。（先取り履修等） ・市内及び市外の中学校入学予定者から生徒を募集するため、特に近隣の中学校への進学者が減少する可能性がある。
<p>必要な調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の学科・コース及び教育内容の特色が明らかになった段階で、入学対象となる小学生及びその保護者、小学校教員、市民に改めて設置の必要性等について調査する。 ・中高一貫教育を行う場合に求める教育内容や特色などについても意見を募る。 ・設置にあたっては施設設備の増設が必要であることを前提とし、技術家庭科室等の特別教室増設に係るコスト試算を行ったうえで広く市民のニーズを問う。

第5章 スケジュール（予定・最短）

【令和3年度（2021年度）】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学科・コース検討			概要		詳細検討（スクール・ポリシー、コース（類型）ほか）							
教育課程検討					概要検討・学校設定教科検討							
選抜検討					選抜方法等研究							
教員研修	新教育課程実施に向けた研修（視察等含む）											

【令和4年度（2022年度）】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学科・コース検討												
教育内容検討	詳細検討（教科・科目・単位数・授業方法ほか）											
選抜検討	選抜問題・方法等研究				選抜問題作成							
生徒募集					中学校等への説明					説明会実施		
教員研修	改革実施に向けた研修（視察等含む）											

【令和5年度（2023年度）】

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学科・コース検討	中高一貫教育に関する調査等											
教育内容検討	シラバス作成・公表											
選抜検討	参考問題公表				選抜問題・方法検討					選抜実施		
生徒募集	中学校等への説明				説明会実施							
教員研修	改革実施に向けた研修（視察等含む）											

【令和6年度（2024年度）】

- 新たな必由館高校スタート（最短）
- 中高一貫教育（併設中学校設置）に関する調査、分析、研究（中学校を設置する場合は施設整備（令和6～8年度））